

インターバンクの声（2013年8月23日）

前日に米公開市場委員会（FOMC）議事要旨が公表された後は、量的緩和の縮小時期について手掛かりが掴めないとの声が大きかったものの、一夜明けてみれば規模は小さいながらも9月からの債券買い入れ縮小が始まるとの見方にすっかり傾いているようだ。ロンドン、ニューヨーク市場でのドル円相場は、細かい上下動を何度も繰り返したものの、一気に99円を超えるまでの勢いはなく、ユーロや豪ドルもほぼレンジ内の動きとなっており明確な方向性は見られない展開だ。

大きな変化がない為替市場に比べて少し元気を取り戻したのが株式市場。ニューヨークのダウ平均が7営業日ぶりによく反発、欧州の主要国の株価も揃って上昇した。アジア時間の中国のHSBC製造業購買担当者指数（PMI）に続いてユーロ圏の総合PMIやドイツのPMIが上昇したことで、一時の世界的な景気減速に対する懸念が薄らいだことが追い風になったようだ。

今日も目立つような経済指標の発表もなく、いつもの年であれば米ワイオミング州ジャクソンホールでのシンポジウムが注目される週末だが、今年はバーナンキ議長が欠席の上に、欧州中央銀行（ECB）のドラギ総裁やイングランド銀行のカーニー総裁も不参加のようでは、週明け月曜日にはシンポジウムの話題すら出てこないかも知れない。来週がこのままの相場に進めば、8月は円高に動くとのアノマリーがワークしない年になりそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。